

全身型重症筋無力症 (gMG)*患者さんに

ヒフデュラ[®]配合皮下注を 調剤する調剤薬局薬剤師さんへ

*ヒフデュラ配合皮下注の効能又は効果:全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る)

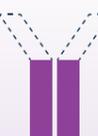


目次

- ヒフデュラについて
- ヒフデュラのサイクル投与
- ヒフデュラの自己投与
- ヒフデュラ投薬予定日前に行うこと
- 投薬時に患者さんにお渡しするもの
- 投薬時に患者さんにお伝えすること

抗FcRn抗体フラグメント・ヒアルロン酸分解酵素配合製剤

エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)・
ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)皮下注製剤 薬価基準収載



ヒフデュラ[®] 配合皮下注

VYVDURA[®] Combination Subcutaneous Injection

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品^注 注)注意-医師等の処方箋により使用すること

新発売

2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

製造販売元
アルジェニクスジャパン株式会社
東京都港区赤坂二丁目5番8号

【文献請求先及び問い合わせ先】
アルジェニクスジャパン株式会社
TEL : 0120-174-103 (フリーダイヤル)
<https://www.vyvgart.jp/>

JP-VDJMG-24-00149
(2024年4月作成)

アルジェニクスジャパン株式会社

ヒフデュラについて

ヒフデュラ®[一般名:エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)]は、ステロイド剤、またはステロイド剤以外の免疫抑制剤の効果が不十分な全身型筋無力症患者さんに対して、処方される皮下注射剤です。

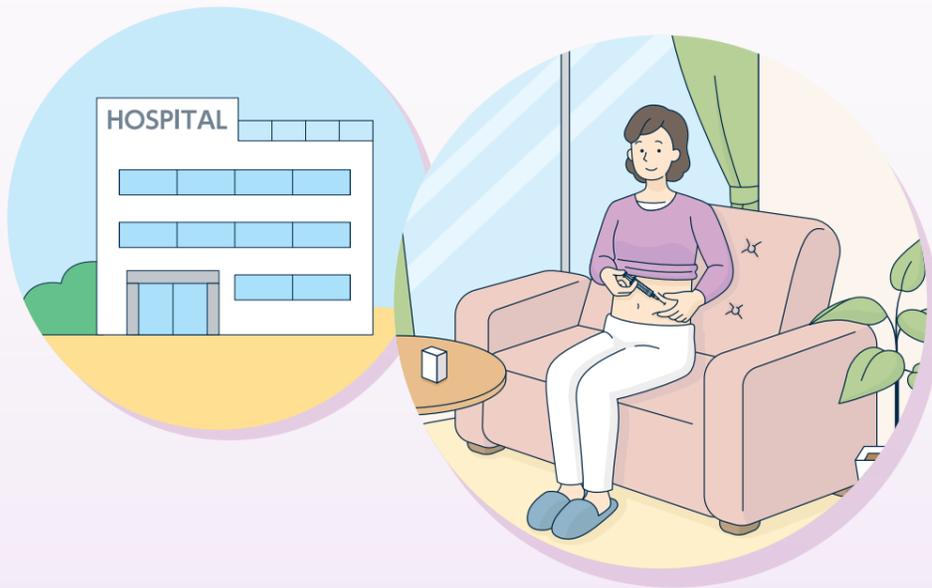
医師が可能と判断した場合は、ご自宅などで患者さんが自己投与できます。

ヒフデュラは、2つの有効成分(エフガルチギモドとボルヒアルロニダーゼ)を含みます。

・エフガルチギモド



・ボルヒアルロニダーゼ



〈ヒフデュラ®の用法及び用量〉

通常、成人には本剤1回5.6mL(エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)として1,008mg及びボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)として11,200単位)を1週間間隔で4回皮下投与する。これを1サイクルとして、投与を繰り返す。

〈重要な基本的注意〉(抜粋)

本剤の自己投与に際しては、以下の点に注意すること。

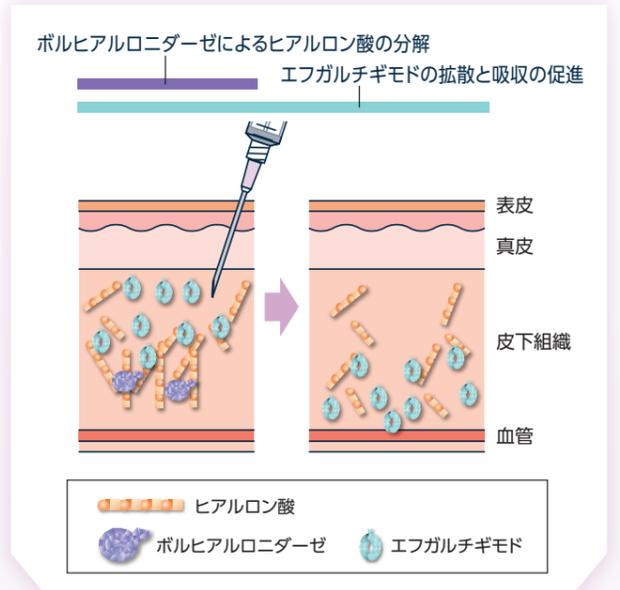
- ・自己投与の適用については、医師がその妥当性を慎重に検討し、十分な教育訓練を実施した後、本剤投与による危険性と対処法について患者が理解し、自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下で実施すること。
- ・使用済みの注射針及び注射器を再使用しないように患者に注意を促し、すべての器具の安全な廃棄方法に関する指導を行うこと。

全身型重症筋無力症は、IgG自己抗体によって症状が起こります

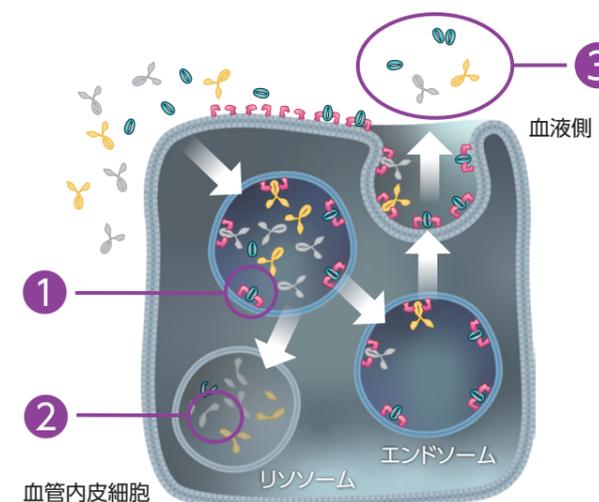
免疫グロブリンのひとつであるIgGは、体内に入ってきた病原体などから、からだを守るためにはたらく抗体です。全身型重症筋無力症の患者さんでは、自分のからだを攻撃する「IgG自己抗体」が作られ、「脳からの指令を伝える神経」と「筋肉」のつなぎ目(神経筋接合部:NMJ)の信号が伝わりにくくなります。

ボルヒアルロニダーゼは、エフガルチギモドが皮下で拡散・吸収されるのを助けます

ボルヒアルロニダーゼは、真皮などに含まれるヒアルロン酸を分解し、一時的に投与部位の皮下組織の浸透性を増加させることで、エフガルチギモドの拡散と吸収を促します。



エフガルチギモドは、IgG自己抗体を含むIgGが胎児性Fc受容体(FcRn)に結合するのを防ぎ、分解を促進し、その血中濃度を下げます



- ① FcRnにエフガルチギモドが結合=IgG自己抗体を含むIgGが結合できなくなる
- ② FcRnと結合できなかったIgG自己抗体を含むIgGはリソソームで分解される
- ③ リサイクル(再利用)されるIgG自己抗体を含むIgGが減る



詳しくはヒフデュラの作用機序動画をご覧ください。
ウィフガート&ヒフデュラ.jp

ヒフデュラのサイクル投与

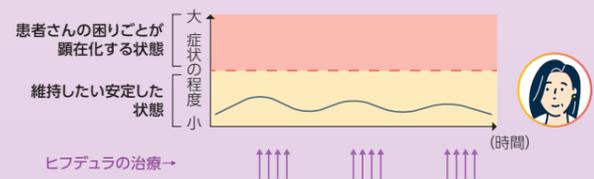
サイクル間隔は患者さんごとに異なるため、患者さんごとの治療リズムをご確認ください

ヒフデュラは1週間間隔で4回投与、これを1サイクルとして投与を繰り返します。次の治療サイクルの開始タイミングは、臨床症状などに応じて患者さんごとに検討されます。そのため、サイクル間隔(前サイクルと次サイクルの間の期間)は患者さんによって変わってきます。患者さんがどのような治療リズムでヒフデュラの治療を続けるかについて、患者さん一人ひとりにご確認ください。なお、臨床試験におけるサイクル間隔(中央値)は約7.1~8.1週間でした¹⁾。

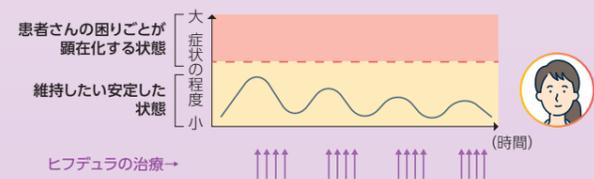


治療サイクルのイメージ

〈Aさんの場合〉



〈Bさんの場合〉



〈ヒフデュラ®の用法及び用量〉

通常、成人には本剤1回5.6mL(エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)として1,008mg及びボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)として11,200単位)を1週間間隔で4回皮下投与する。これを1サイクルとして、投与を繰り返す。

〈用法及び用量に関連する注意〉

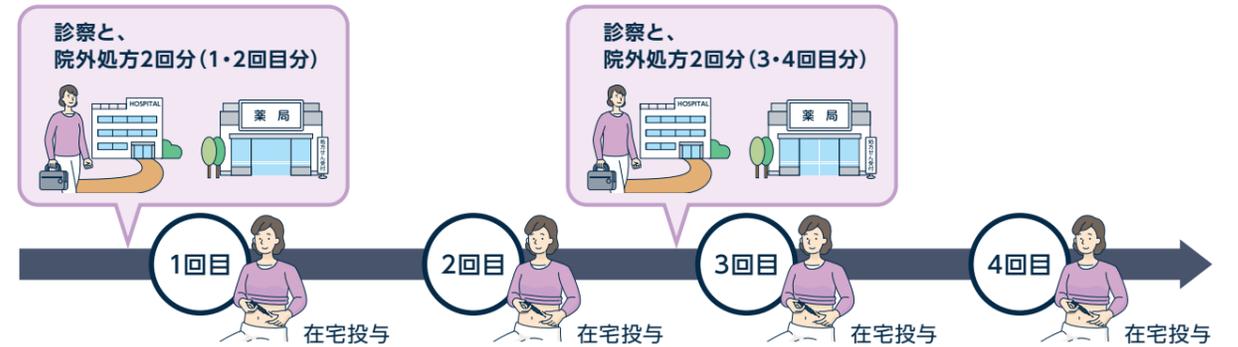
- ・次サイクル投与の必要性は、臨床症状等に基づき、判断すること。
- ・本剤を投与する場合に、何らかの理由により投与が遅れた際には、あらかじめ定めた投与日から3日以内であればその時点で投与を行い、その後はあらかじめ定めた日に投与すること。あらかじめ定めた投与日から3日を超えていれば投与せず、次のあらかじめ定めた日に投与すること。

1) ヒフデュラ配合皮下注電子添文

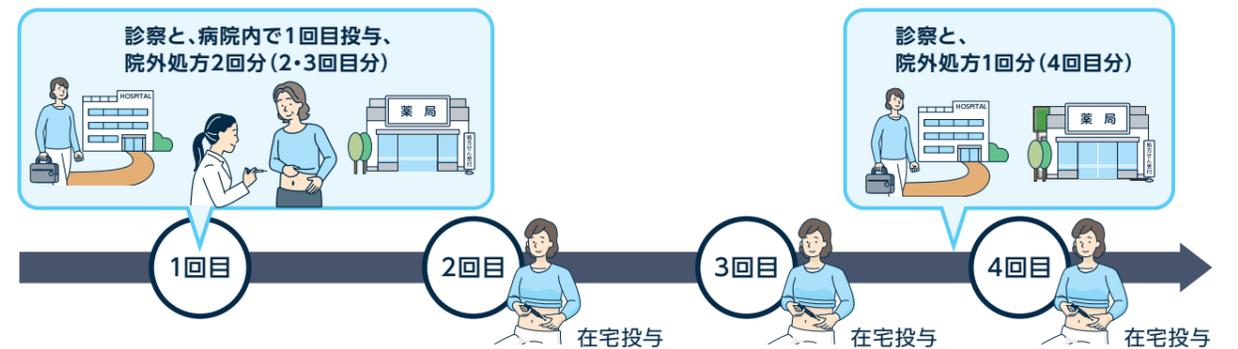
ヒフデュラのサイクル投与における院外処方タイミング(発売後1年以内)

ヒフデュラは2025年4月末までは処方日数制限があるため、1回の処方では、通常、ヒフデュラ2回分まで処方されます。

例 1



例 2



例 3



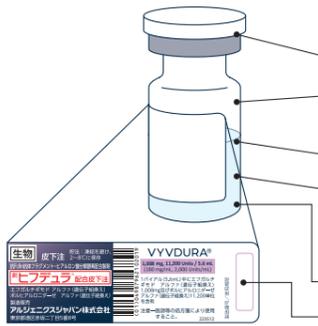
ヒフデュラの自己投与



自己注射の方法を動画で紹介しています。
<https://www.patients.vygart.jp/vydura/gmg/vydura/administration2>

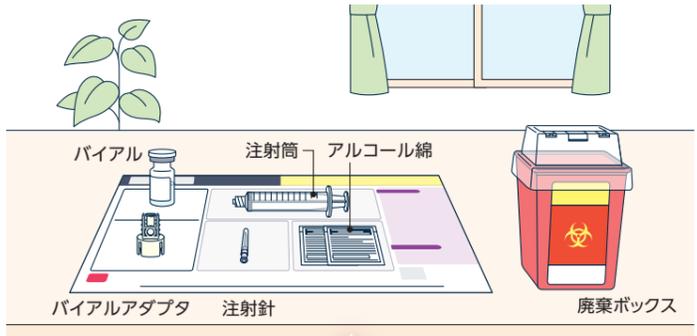
注射の準備(注射に必要な物品の用意)

注射に必要なものを用意します。



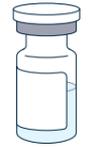
チェックポイント

- 1 保護キャップに「ゆるみ」はないか
- 2 ピンが割れていたり、ひびが入っていないか
- 3 中身の液体が凍結していないか
- 4 中身の液体が変色していないか(正常であれば、黄色みを帯び、透明から乳白色の液体です)
- 5 中身の液体に異物が混入していないか
- 6 「使用期限」を過ぎていないか

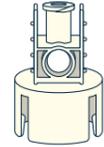


バイアル アダプタ 注射筒 注射針 アルコール綿 廃棄ボックス

● ヒフデュラ®配合皮下注 バイアル



● バイアルアダプタ



● アルコール綿



● 注射筒



● 注射針*



*実際に渡される注射針はここに示したものと形状が異なる場合があります。

● 廃棄ボックス



● 準備マット

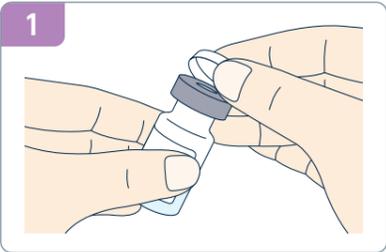


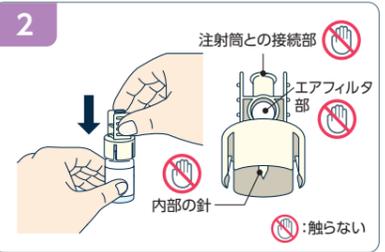
必要に応じて用意していただくもの

- ガーゼ
- 絆創膏
- タイマー

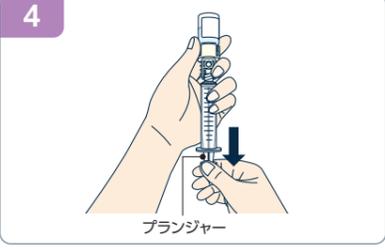
- !**
- 使用するバイアルは、注射の15分以上前には、冷蔵庫から取り出し、室温に戻します。
 - バイアルは長時間室温で放置しないようにしてください。
 - 室温に戻したバイアルは、当日中に必ず使用し、再び冷蔵庫に戻さないでください。

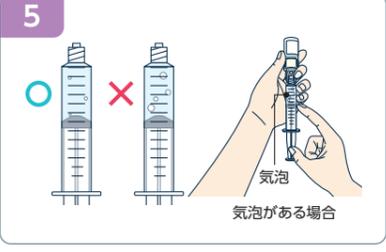
注射筒への充填

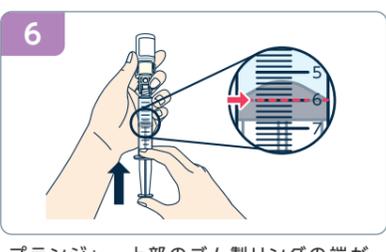
- 1 

バイアルのキャップをはずし、ゴム栓をアルコール綿で消毒し、自然に乾燥させます。
- 2 

バイアルアダプタをバイアルに取り付けます。
 ・バイアルのゴム栓にまっすぐに刺してください。斜めに刺すと針で削り取られたゴム片が薬液に混入することがあります。
- 3 

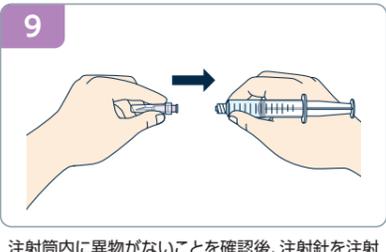
注射筒を時計回りに回転させて取り付けます。
- 4 

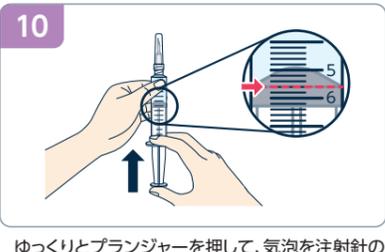
バイアルを上注射筒を下にし、プランジャーをゆっくり下に引き、薬液の全量を注射筒に移します。
- 5 

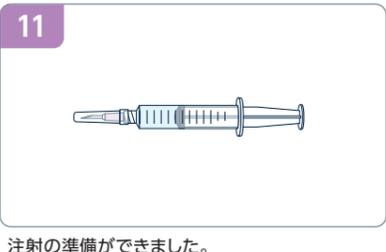
注射筒内に大きな気泡がないことを確認します(多少、小さな気泡が残っていても問題ありません)。
 ・大きな気泡がある場合、注射筒を指で軽くたたいてできるだけ気泡を上部に移動させ、プランジャーをゆっくり押し、気泡を注射筒からバイアルに押し出してください。
- 6 

プランジャー上部のゴム製リングの端が、6.0mL(注射筒の目盛り)程度になるまでプランジャーを押し進めます。
 ・6.0mLより少なくならないように注意してください。
- 7 

注射筒を上にして、バイアルアダプタから取りはずします(反時計回り)。
- 8 

バイアルアダプタとバイアルはそのまま廃棄ボックスなどに廃棄します。
- 9 

注射筒内に異物がないことを確認後、注射針を注射筒の先端に取り付けます。
 ・注射筒内に異物がある場合は、速やかに医療機関に連絡してください。
- 10 

ゆっくりとプランジャーを押し、気泡を注射針の針先から押し出し、針の先端まで薬液を移動させます。次に、プランジャー上部のゴム製リングの端が、5.6mL(注射筒の目盛り)に一致するまでプランジャーを押し進めます。
 ・注射筒の目盛りを厳密に5.6mLに一致させる必要はありませんが、5.6mLより少なくならないように注意してください。
- 11 

注射の準備ができました。
 ・この状態で長時間放置せず、速やかに注射操作に進んでください。

補足事項

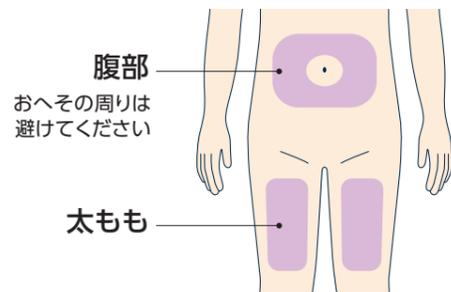
注射筒や注射針の開封方法

プリスター包装	リボンパック包装
	
開封の仕方  開口口から開封	開封の仕方  切れ込みから開封

一般的な注射筒や注射針のパッケージはプリスター包装の開口口から開封、またはリボンパック包装の切れ込みから開封します。

ヒフデュラの自己投与

注射部位



- 前回とは違う部位に注射すること。
- 赤みのある部位、傷や傷あと、あざ、痛みを感じる部位、硬い部位、ほくろのある部位などは避けること。
- おへその周り5cm以内は避けること。

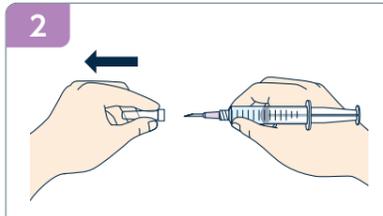
投与方法



中心から外側へと円を描くように優しくふきます。

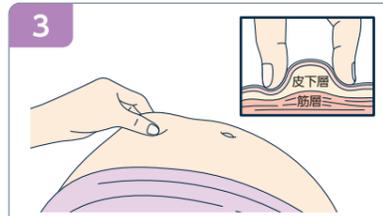
注射部位をアルコール綿で消毒し、自然に乾燥させます。

- 消毒した部位には注射するまで触れないでください。

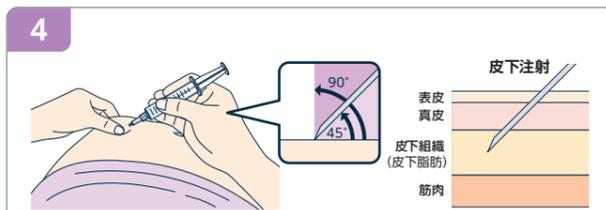


針カバーをゆっくりと引っ張ってははずします。

- 針カバーをひねらないでください。



利き手と反対の手で注射部位の皮膚を優しくつまみ、皮膚の「テント」を作ります。
・皮膚の中に針が入る十分なスペースができるように「テント」を作ってください。



使用する注射針により刺す角度・深さが変わります。

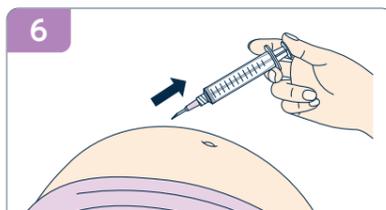
利き手で注射筒をもち、皮膚の「テント」の真ん中に注射針を45度～90度の角度*で優しく刺します。

- *使用する注射針により刺す角度・深さが変わるため、医療機関での指導に従うようにしてください。
- 皮膚をつまむ方向と針を刺す方向を直線上にすると刺しやすいです。



利き手でプランジャーを一定の力でゆっくり押し、通常、30～90秒かけて薬液を全量注入します。

- 時間をかけて注入することで、痛みが軽減されることもあります。



薬液を全量注入したことを確認した後に、皮膚をつまんでいた手をはなし、注射針を刺した角度と同じ角度で抜きます。

- 出血がある場合は、出血が止まるまでアルコール綿、ガーゼなどで軽く押さえてください。
- 注射部位に絆創膏を貼ってください。



注射針と注射筒はそのまま廃棄ボックスなどに廃棄します。

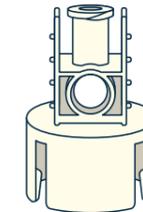
ヒフデュラ投薬予定日前に行うこと

患者さんごとの院外処方予定日・予定本数を、サイクル投与開始前にご確認ください。

院外処方予定日までヒフデュラとバイアルアダプタを予定本数分ご準備ください。



● ヒフデュラ®配合皮下注 バイアル



● バイアルアダプタ

新しいサイクル開始時には、患者さんにお渡しする廃棄ボックスをご準備ください。



● 廃棄ボックス

廃棄ボックスは基本的には1サイクル分(4回投与)の注射針や注射筒等の廃棄が可能となっています。

ヒフデュラで治療する患者さんに、ヒフデュラ投薬予定日には、凍らせた保冷剤を入れた保冷バッグを持参するようにお伝えください。

- 保冷バッグ提供時に、保冷剤が2個同封されています。
- 保冷バッグは4バイアルが収納できます。



投薬時に患者さんにお渡しするもの

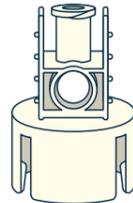
ヒフデュラでの在宅自己投与時に必要なものが、
投与回数分そろっていることをご確認ください。

調剤薬局から必ずお渡しいただくもの

ヒフデュラ®配合
皮下注 バイアル



バイアルアダプタ



病院から渡されているかどうかをご確認ください (処方箋に記載がない場合)

注射筒



注射針*



*実際に渡される注射針はここに示したものと
形状が異なる場合があります。

アルコール綿



サイクル開始時、新しい廃棄ボックスがあるかご確認ください。
病院から渡されていない場合は、調剤薬局からお渡しください。

廃棄ボックス



- 廃棄ボックスは基本的には1サイクル分(4回投与)の
注射針や注射筒等の廃棄が可能となっています。
- 次サイクルの投与が決まりましたら、追加の廃棄
ボックスを患者さんにご提供ください。

ご希望に応じてお渡しください



準備マット



自己注射ガイドブック



治療日誌

など

ヒフデュラ連絡帳もご活用ください

- ヒフデュラを調剤薬局で
受け取る患者さんが、病院
や調剤薬局にサイクル投与
タイミングをお伝えする
ための連絡帳です。



在庫のお取り寄せにあたっては、下記宛にご連絡ください。

ヒフデュラ®配合皮下注に関する
お問い合わせ先
(医療関係者様専用)

電話番号 **0120-174-103** (フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝日および当社休業日を除く)

投薬時に患者さんにお伝えすること

保管について、ご指導ください。

- 保冷バッグはヒフデュラの長時間の保管を目的としたものではなく、必要な保冷状態を保証するものではないため、帰宅後、速やかに冷蔵庫(2~8℃)で保管すること
- 冷蔵庫内で凍結を避けて保管すること
- 遮光のため、箱に入れたまま保管すること
- 冷蔵庫内のお子様の手が届かない場所に保管し、使用するまで取り出さないこと



! 冷蔵庫内の温度が不安定な場所*での保管は避けてください。
*ドアポケット、ドア付近、冷気の吹出口付近

ヒフデュラ®で治療中の患者さんに、次のような症状があらわれたら、すぐに主治医にお知らせいただくようにご指導ください。

特に感染症およびショック、アナフィラキシーに注意してください。

感染症

- かぜのような症状
(発熱、のどの痛み、咳・痰、くしゃみ、鼻水)
- 腹痛、下痢
- 尿路感染
- 皮膚のチクチクする痛み、水ぶくれを伴う赤い発疹(帯状疱疹)

ショック、アナフィラキシー

全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、ドキドキする、息苦しいなどの症状

その他、下記の副作用がおこることがあります。

体調の変化や気になる症状があらわれたら、主治医にご相談するようにお伝えください。

- 注射部位反応
(注射部位が赤くなる、痛くなる、かゆくなる、発疹が出るなどの症状)
- 浮動性めまい
(めまい、足元がふわふわする)
- 頭痛
- 悪心・嘔吐
(気持ち悪い、はきそうになる)
- 疲労
- 発疹
(赤いブツブツができる、赤くかさかさしている)
- リンパ球数減少
- 好中球数増加

抗FcRn抗体フラグメント・ヒアルロン酸分解酵素配合製剤

エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)・

ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)皮下注製剤

薬価基準収載

ヒフデュラ®

配合皮下注

VYVDURA® Combination Subcutaneous Injection

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品^{注)} 注)注意-医師等の処方箋により使用すること

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

本剤1バイアル(5.6mL)中に次の成分を含有する。

成分		分量
有効成分	エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)	1008mg
	ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	11200単位
添加剤	L-ヒスチジン	8mg
	L-ヒスチジン塩酸塩水和物	12mg
	L-メチオニン	8mg
	塩化ナトリウム	32mg
	精製白糖	115mg
	ポリソルベート20	2mg

本剤は、チャイニーズハムスター卵巣細胞を用いて製造される。

3.2 製剤の性状

性状	帯黄色の澄明又は僅かに乳濁した液
pH	5.7～6.3
浸透圧比	0.9～1.3(対生理食塩液比)

4. 効能又は効果

全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る)

6. 用法及び用量

通常、成人には本剤1回5.6mL(エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)として1,008mg及びボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)として11,200単位)を1週間間隔で4回皮下投与する。これを1サイクルとして、投与を繰り返す。

7. 用法及び用量に関連する注意

7.1 次サイクル投与の必要性は、臨床症状等に基づき、判断すること。[17.1.1、17.1.2参照]

7.2 本剤を投与する場合に、何らかの理由により投与が遅れた際には、あらかじめ定めた投与日から3日以内であればその時点で投与を行い、その後はあらかじめ定めた日に投与すること。あらかじめ定めた投与日から3日を超えていれば投与せず、次のあらかじめ定めた日に投与すること。

8. 重要な基本的注意

8.1 本剤の投与により、血中IgG濃度が低下し、感染症が生じる又は悪化するおそれがある。本剤の治療期間中及び治療終了後は定期的に血液検査を行うなど、患者の状態を十分に観察すること。また、感染症の自他覚症状に注意し、異常が認められた場合には、速やかに医療機関に相談するよう患者に指導すること。[9.1.1、11.1.1、16.8.1参照]

日本標準商品分類番号	876399
------------	--------

一般的名称	エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)・ ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)皮下注製剤		
製造販売業者	アルジェニクスジャパン株式会社		
承認番号	30600AMX00007000	承認年月	2024年1月
薬価基準収載年月	2024年4月	販売開始年月	2024年4月
貯法	2～8℃で保存	有効期間	18箇月

8.2 本剤の自己投与に際しては、以下の点に注意すること。
・自己投与の適用については、医師がその妥当性を慎重に検討し、十分な教育訓練を実施した後、本剤投与による危険性と対処法について患者が理解し、自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下で実施すること。
・使用済みの注射針及び注射器を再使用しないように患者に注意を促し、すべての器具の安全な廃棄方法に関する指導を行うこと。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 感染症のある患者

感染症を合併している場合は、感染症の治療を優先すること。感染症が増悪するおそれがある。[8.1、11.1.1参照]

9.1.2 肝炎ウイルスキャリアの患者

肝炎ウイルスキャリアの患者に本剤を投与する場合は、肝機能検査値や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化やC型肝炎の悪化の徴候や症状の発現に注意すること。

9.2 腎機能障害患者

エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)の血中濃度が上昇するおそれがある。[16.6.1参照]

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。IgG抗体は胎盤通過性があることが知られている。本剤の投与を受けた患者からの出生児においては、母体から移行するIgG抗体が減少し、感染のリスクが高まる可能性がある。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。本剤のヒト乳汁中への移行は不明であるが、ヒトIgGは乳汁中に移行することが知られている。

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

10. 相互作用

10.2 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
人免疫グロブリン製剤(ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン等)	これらの薬剤の治療効果が減弱する可能性がある。これらの薬剤による治療を開始する場合、本剤のサイクル投与における最終投与から2週間後以降に投与することが望ましい。	本剤がこれらの薬剤の血中濃度を低下させる可能性がある。
抗補体(C5)モノクローナル抗体製剤(エクリズマブ(遺伝子組換え)、ラブリズマブ(遺伝子組換え))	本剤又は抗FcRnモノクローナル抗体製剤の治療効果が減弱する可能性がある。抗FcRnモノクローナル抗体製剤による治療を開始する場合、本剤のサイクル投与における最終投与から2週間後以降に投与することが望ましい。	本剤を含むFcRnに結合する薬剤の血中濃度が低下する可能性がある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
血液浄化療法	本剤の治療効果が減弱する可能性があるため、併用を避けることが望ましい。	本剤による治療中に施行することにより本剤の血中濃度を低下させる可能性がある。
生ワクチン及び弱毒生ワクチン	本剤による治療中の接種を避けることが望ましい。接種が必要な場合は本剤投与開始の少なくとも4週間前までに接種することが望ましい。本剤による治療中の場合、最終投与から2週間以降にワクチンを投与することが望ましい。	生ワクチン又は弱毒生ワクチンによる感染症発現のリスクが増大するおそれがある。
生ワクチン及び弱毒生ワクチン以外のワクチン	ワクチンの効果が減弱する可能性がある。	本剤の作用機序により、ワクチンに対する免疫応答が得られない可能性がある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 感染症(4.8%) [8.1、9.1.1、11.2参照]

11.1.2 ショック、アナフィラキシー(頻度不明)

11.2 その他の副作用

	5～15%未満	5%未満
一般・全身障害および投与部位の状態	注射部位紅斑、注射部位疼痛、注射部位そう痒感、注射部位発疹	疲労
神経系障害	頭痛	浮動性めまい
胃腸障害		悪心、嘔吐
臨床検査		リンパ球数減少、好中球数増加
感染症および寄生虫症		帯状疱疹、尿路感染、上咽頭炎、上気道感染
皮膚および皮下組織障害		発疹

14. 適用上の注意

14.1 薬剤投与前の注意

14.1.1 バイアル中が帯黄色の澄明又は僅かに乳濁した液であることを目視により確認すること。異物が認められる場合は使用しないこと。バイアルは振盪しないこと。

14.2 薬剤投与時の注意

14.2.1 注射部位は腹部又は大腿部とし、同一箇所へ繰り返し投与することは避けること。皮膚に異常のある部位(発赤、傷、硬結、癬痕等)は避けること。

14.2.2 本剤5.6mLを通常、30～90秒かけて投与すること。

14.2.3 他の薬剤と混合しないこと。

14.2.4 本剤は1回で全量使用する製剤であり、再使用しないこと。

2024年1月作成(第1版)

詳細につきましては電子化された添付文書をご参照ください。電子化された添付文書の改訂には十分ご留意ください。

製造販売元
アルジェニクスジャパン株式会社
東京都港区赤坂二丁目5番8号

【文献請求先及び問い合わせ先】
アルジェニクスジャパン株式会社
TEL：0120-174-103 (フリーダイヤル)
https://www.vyvgart.jp/

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

国際共同第Ⅲ相試験(ARGX-113-2001)において、本剤が投与され抗体が測定された55例のうち、エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)に対する抗体が19例(34.5%)、中和抗体が2例(3.6%)に認められた。ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)に対する抗体は3例(5.5%)に認められ、中和抗体は検出されなかった¹⁾。

1)社内資料：免疫原性(2024年1月18日承認、CTD 2.7.2.4.1)[EFG90045]

20. 取扱い上の注意

凍結を避け、外箱開封後は遮光して保存すること。

21. 承認条件

21.1 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。
21.2 国内での投与経験が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤の使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

22. 包装

ヒフデュラ配合皮下注：1バイアル

24. 文献請求先及び問い合わせ先

アルジェニクスジャパン株式会社
107-0052 東京都港区赤坂二丁目5番8号
ヒューリックJP赤坂ビル
TEL：0120-174-103

25. 保険給付上の注意

本剤は新医薬品であるため、厚生労働省告示第107号(平成18年3月6日付)に基づき、2025年4月末日までは、投薬は1回14日分を限度とされている。

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

アルジェニクスジャパン株式会社
東京都港区赤坂二丁目5番8号

製品サイトも
ご覧ください

ウィフガード®&ヒフデュラ®.jp
https://www.vyvgart.jp/

